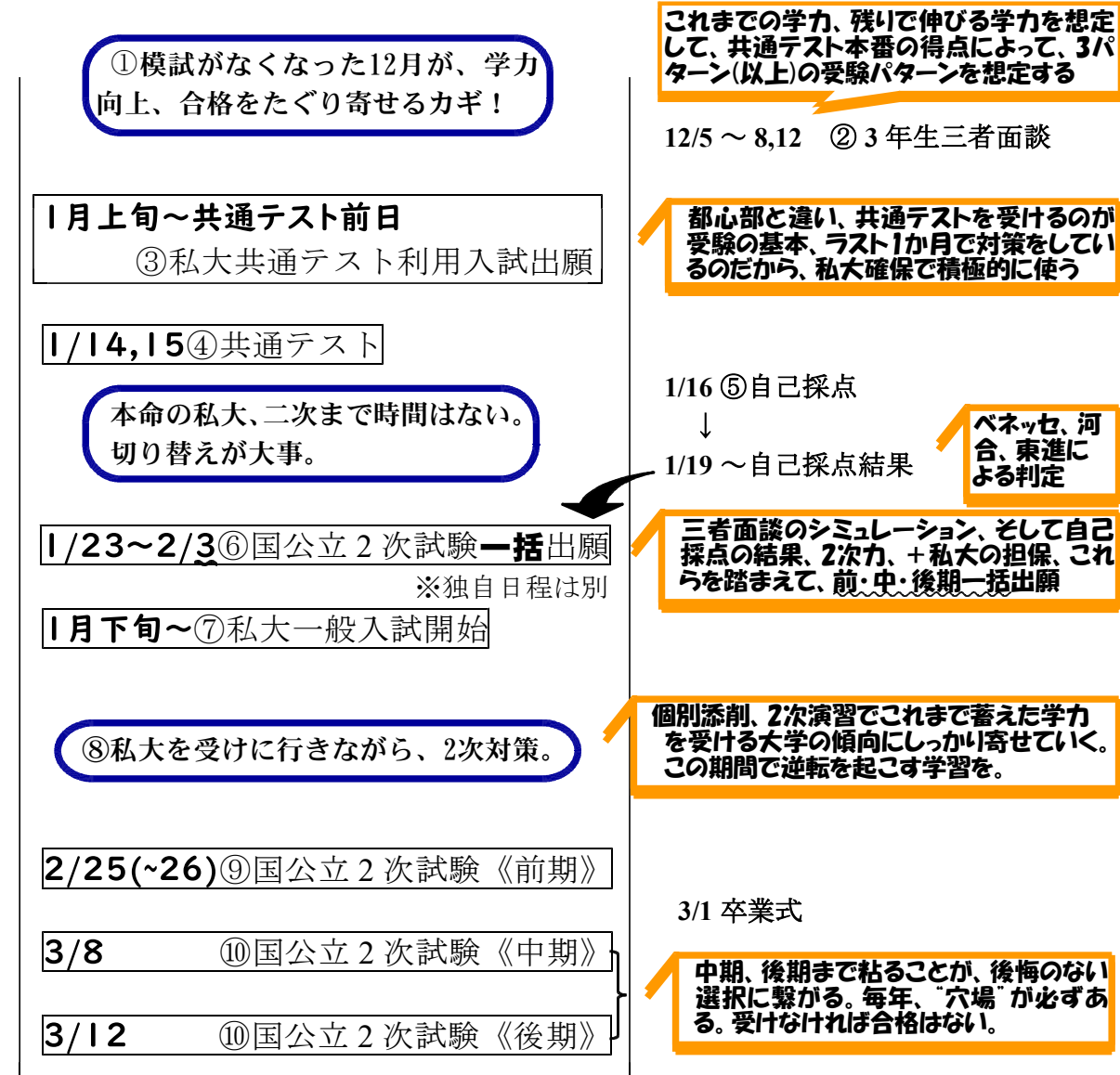


全学年生徒・保護者・教員対象保存版 改めて大学受験の流れを知ろう

大学入試(一般受験)の主な流れ ※日程は今年度



① [11, 12月の学習] 校外模試が11月前半で一段落。後は共通テストプレ。11月で“仕上がっている”現役生は当然少ない。この時の模試の判定で全てが決まるわけではない。11月から共通テスト、私大入試、国公立2次まで70日～110日もある。ここでしっかり力をつけたか、もういっぱいいっぱい伸びないか、ここも含めて出願校は判断をする。11, 12月の学習の仕方がカギを握るのはそういう意味だ。

②3年生三者面談 [12/5～8, 12]

高校受験と違い、選択肢が多いのが大学受験。一方で、国公立大学は前期・中期・後期で一つずつしか受けられない。⑤共通テストの自己採点結果が出てから、国公立2次出願まで時間がない。ここで、迷って迷って時間をロスすると2次対策が遅れることになる。だから、12月の三者面談で、共通テストで何%取れたら、③共通テスト利用私大で〇〇大学が取れそうなら、国公立前期は□□へ出願、といったシミュレーションを3通り(以上)想定します。当然、模試の結果をベースに話が展開しますが、そこにプラスして①で書いたようなことを担任、学年、進路が加味して出願を提案します。現実的な選択が近づいてくる時期、「勇気ある撤退」が必要な場合も出てきます。しかし、自分の将来を決める大勝負に向けて、気持ちを整理し前向きに悔いなく勝負に行ける体制を整えていきましょう。

③私大共通テスト利用入試

「私大共通テスト利用は取る定員が少ないから難しい」という“情報”が入ってくるかも知れませんが、前回は直前期に共通テスト対策をしており、その中で共通合格の得点率(%)が取れるようなら積極的に活用すべきです。ここで、私立大学が押さえられると、⑥国公立2次試験の出願や⑦私大一般入試の出願を強気に出せることになります。例えば、共通テスト利用で明治大学が合格しそうだ、ということがわかれば、国公立第1志望の筑波の判定がCやDでも強気に勝負に行けるという選択肢が増えます(明治が受かっている[受かる力がある]のなら国公立を埼玉や東京都立に下げなくてもいいという論理)。私大専願者も、共通テスト利用で明治大学が合格しそうだ、ということがわかれば、私大一般入試で日東駒専を受ける必要がなくなり、その分、早稲田・慶應を1校多く受けられます。この私大共通テスト利用でどこに、どこまで出すかも②三者面談で確認します。

また、共通テスト利用で3教科より多くの科目を課す大学があります。国公立志望者で3教科勝負だと、私立専願者と戦うのは不利な人もいるので、この4～7教科型の試験を活用すると私立専願者は受けられませんから、戦略として考えていきましょう。また、難関国公立を狙う人は、早稲田、明治、立教が6(～7)教科型なので、自己採点が合っているかどうかの確認にもなるので、学部系統が違って出願を検討するといいいでしょう。

④共通テスト

国公立大学を一般入試で目指す人はこれを受けなければ国公立大学には入れません。「国公立大学の1次試験」と捉えてください。

⑤自己採点→自己採点結果

共通テストは全問マークなので、自己採点が可能です。その自己採点を翌日に学校で行い志望校(受きたい国公立大学数校、出願した私大共通テスト利用)を書いて、ベネッセ、河合、東進にデータを送ります。だいたい木曜日にその結果(志望校の判定)が返ってきます。この結果を参考に⑥国公立2次をどこに受けるかを決めていくのですが、共通テスト翌日からすでに2/25に向けての最終決戦は始まっています。ほとんどの生徒が共通テストの結果にかかわらず、自己採点が終わった時点から、担任や進路の先生と面談したり、勉強を始めたりと自らを鼓舞するように気持ちを切り替えて動き出します。

⑥国公立2次試験一括出願

(裏面に続く)

「一括」というのは、前期・中期・後期（+独自日程入試）を一緒に出願するということだ。2/25 前期の合否結果を見て中期・後期をどこに出すかを考えるのではないということ。②で上述したように、国公立は前期・中期・後期で一つずつしか受けられない。つまり、お茶の水女子が A 判定で、一橋が C 判定だった人がいるとする。C 判定だから当然可能性は半分あるが落ちる可能性も半分ある。一橋に勝負で出願した場合、お茶の水女子には出願できないからお茶の水女子の合格は消える（後期に出願できれば別）。一橋は厳しいかなと思ってお茶の水女子に前期出願した場合、お茶の水女子の合格の確率は上がるが、第 1 志望の一橋に“勝負せずしてあきらめる”、ということになる。

だから、さかのぼって 12 月の②三者面談でのシミュレーションが大事になってくるわけです。12 月の（もっと言うと、戦略的にはもっと前から考えておけばベスト）頭が冷静なうちに「場合分け」をしておくことが、国公立出願の時に迷わずに済むのです（いや、そうは言ってもやっぱり迷う人は迷います。でも、12 月に考えておいたことがあれば、その悩む時間も少なくなっているはずです）。

D 判定でも勝負、C 判定でも下げる…??…どういう基準？

「2 次で逆転できる力がある、下げた国公立より良い私大に受かる」のなら、D だろうが勝負だよ。逆に、「C 判定だけどその子の 2 次力だと 2 次勝負は厳しい」、「B 判定のところ例年以上に多くの志望者が集まっている、つまり逆転は厳しい」…等の場合、当然検討が必要だ。「強気」と「冷静な戦略」、前女はしっかりと判断し勝負させます。

国公立の定員の振り分けは前期にほとんど（後期の定員は少ない）

「第 1 志望の大学が前期だけでなく後期にもある。だから、2 回受けられるチャンスがある。」と思っている人は要注意。ほとんどの大学が後期の定員は少ない、または前期試験のみとなっています。後期の定員が少ない、後期試験を実施する大学少ないということは、同じ大学でも前期より後期の方が難易度が高くなっているのです。例えば、東大には後期試験がありません。よって、東大に落ちた生徒は後期は東大に出願できないので、東北大学・経済に出願します。東北大学志望者は後期は東大や一橋の前期落ちた組と戦うわけです。東北大学経済学部の後期が難しくなる、というからくりがわかりましたか？よって、前期と後期の出願する時は、後期は前期の 1,2 ランク下の大学に出願するのが基本です。例えば、以下のように。

《前期》京都、一橋	→	《後期》お茶の水、北海道
《前期》東北、筑波	→	《後期》埼玉、新潟
《前期》埼玉	→	《後期》群馬

中期も出しておけると選択肢が広がるので、国公立大学優先の生徒やブロック大学以下の生徒は必ず検討すること。高崎経済大学、都留文科大学など。

私立専願の生徒(3教科受験)でも受けられる国公立は結構ある

主なところをいくつか紹介しておきます。私大一般入試と日程がずれるから使えます。

《前期》東京都立(法)、埼玉(経済-国際プログラム)、信州(人文)、横浜市立、愛知県立、都留文科、高崎経済(地域)、群馬県立女子	
《中期》都留文科、高崎経済(経済)	
《後期》お茶の水(※一部)、東京外国語、高崎経済(地域)、群馬県立女子	
《独自》国際教養、新潟県立	※前中後期と出願時期が異なります。

⑦私大一般入試

共通テストの結果を見てから出願できる場合が多いです（日程が 1 月下旬～2 月初旬の場合は間に合いませんので、共通テストの結果を見る前に出願せざるを得ません）。

私大専願者は、この一般入試が大勝負になるわけですが、⑥のところで 2/25 ～の国公立も受けられます。私大一般入試の結果を見てから受けに行くかを判断できるので、「国公立をすべり止め」という使い方ができます。例えば、国公立に高崎経済大学を出願しておき、高崎経済大学より行きたい大学に私大が受ければ受けに行かなければいいし、私大の結果が思わしくなければ出願してある国公立を受けに行けばいい、ということです。

⑧私大を受けに行きながら、国公立2次対策

共通テストから 2 次の前期試験まで 40 日弱あります。ここで、さらに力がつきます。「受験学力をさらに」積み重ねながら、「第 1 志望の大学の傾向に合わせた学力」を身につけていく時期です。前女では、共通テスト後に私大一般入試や国公立 2 次試験に対応していきます。2 月中旬から 3 年生は家庭学習期間に入りますが、ほとんどの 3 年生が学校へ来て自習したり、個別指導を受けたり、補習を受けています。

先ほどの「2 つ」の学力をつけるための対策です。そこで、前女生にアドバイスを。「自分の受験する大学のレベルじゃないからやらない」という生徒は要注意です。「志望大学の問題じゃないと意味がない」という思いからなのでしょう。色々な大学入試の問題をやらせるのは、一つ目の「受験学力をさらに」身につけさせる、最終チェックをさせるためです。一般的な受験学力と第 1 志望の傾向に合わせた学力の両輪がかけ合わさって学力は向上していきます。例えば、世界史で東大 2019 の 600 字論述を 2020 年度の東大、筑波、東京外大志望者にやらせました（逆に一橋志望者にはやらせませんでした）。みんなそれをやる意味がわかっているので真剣に解いて解説を聞き自分のものにしました。そして、その問題と全く同じ問題がその年の東京外大 400 字論述で出題されました（合格しています）。そして、この問題は京都 2018 の論述と同じ内容で、この京都の問題を 2019 年度受験の東大、外大、筑波志望者にやらせました。そして、その年の東大で出題されました。そういうことを考えて、教員は問題もチョイスしています。個別添削指導では、過去問などを使って「2 次学力、志望大学の傾向に合わせた学力」を養成します。

⑨国公立2次試験《前期》

共通テストもそうだが、国公立 2 次試験も、最後は「あきらめずにこれまでやってきたことを出し切る」ことのみ。傾向が変われば当然慌てるが、ライバルみんなも同じ条件なのだから、ここからは“自力勝負”になる。やはり、積み重ねてきた学力でやり切ってくればいいのだ。 ※前・中・後期日程以外で独自日程を設けている大学もある。

⑩国公立2次試験《中期》《後期》

⑨の《前期》が当然第 1 本命なわけだが、「《後期》までやるんだ」という生徒が強いのは、受験のゴールテープを 3/12 に設定しているのです、本命の 2/25 も全速力で駆け抜けるからだ。つまり、2/25 よりも先にまだ勝負があると思っていれば、2/25 で足は止まらない。2/25 がゴールだと思っていると、“その手前から無意識に足が止まり出す”。つまり、勢いがない状態で 2/25 を迎えてしまうのだ。2/25 で絶対に受かりたい前女生、3/12 まで受け切る気持ちで頑張りなさい。1,2 年生も、それが「受験に勝つ常道」と心得よ。